

2011(平成 23)年 1 月 4 日

各位

エクソンモービル有限会社

問合せ先:

広報渉外部

TEL:03-6713-4400

本日、2011(平成 23)年始業日を迎え、エクソンモービル・ジャパングループ代表、P. P. デューコムより、従業員に向けての年頭所感を発表いたしました。以下、原文の抜粋となりますので、ご参照ください。

### エクソンモービル・ジャパングループ代表 年頭所感

皆さん、明けましておめでとうございます。

まず初めに、皆さんが昨年 1 年間業務に精励され、貢献されたことに感謝の意を表したいと思えます。

昨年は、エクソンモービル・ジャパングループ誕生 10 周年という節目の年でした。私たちは、当グループの日本における 117 年の歴史、そしてこの 10 年間グループ一丸となって、多くのことを成し遂げたことに誇りをもつことができます。私たちは将来に向けての礎を築きました。皆さんのご尽力により、2010 年は多くの改善を成し遂げた年として記憶されるでしょう。

製造段階から製品の貯蔵・輸送、SS にいたるまで環境面でのパフォーマンスは優秀であり、大きな事故もありませんでした。さらに、省エネルギー努力を継続した結果、2009 年と比べてエネルギー効率の向上が図られました。

操業における信頼性も、2010 年は前年に比べて一段と向上し、その結果、改善に重点を置き、コストを削減し、「セルフ・ヘルプ」による効果は 1 億ドルを越えました。また、Integrated Business Team のガイダンスのもとで、価格動向を踏まえつつ製品生産量の最適化を常に追求してきましたが、私たちの組織全体として見たとき卓越した実績を残しました。市場環境に助けられた部分があったにせよ、皆さんの貢献がなければここまでの成績は残せなかったでしょう。

今後の状況に目を転じますと、アジア太平洋地域における経済成長と景気回復は日本にとって朗報ですが、国内政治の不確かさと、巨額の財政赤字や円高など、日本経済が直面する課題が、こうした海外における需要拡大の恩恵を受ける上での制約となるでしょう。更に、「重質油分解装置の装備率基準」、バイオ燃料の使用拡大の義務化、温室効果ガスの 25%削減目標(2020 年まで)といった新たな規制が、経済的な改善への取り組みをいっそう複雑なものにすることが予想

されます。

2011 年を、2010 年に引き続き成功の年とするためには、完璧な操業を維持し、効率性と合理化を絶えず追求し、「経営基盤の強化」を継続することが必要です。言い換えれば、私たちがコントロール可能な分野に集中し、原油調達から製品を販売するサービスステーションにいたるまで、競争力のあるサプライチェーンの構築を確かなものとする必要があります。

昨年 9 月にエクソンモービル・ジャパングループ代表に就任いたしましたが、今では、精製、供給、潤滑油、ケミカル、燃料油販売、サービス部門が緊密に連携し、統合された形を発展させ続けられ、業界のリーダーとなれることをこれまで以上に強く確信しています。

最後に、皆さんと、皆さんのご家族の安全と、ご多幸、ご繁栄を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひします。今年も一緒に頑張りましょう。

エクソンモービル・ジャパングループ代表  
P. P. デューコム

以上

#### エクソンモービル有限会社 および エクソンモービル・ジャパングループについて

エクソンモービル・ジャパングループは、エクソンモービル有限会社を中心に、東燃ゼネラル石油株式会社、東燃化学を含む複数の子会社・関連会社で構成されています。エクソンモービル・ジャパングループは、日本を代表する石油製品、潤滑油、石油化学品の製造・販売業者であり、その創業は 1893 年にさかのぼります。エクソンモービル有限会社は、米エクソン モービル コーポレーションが 100%の株式を間接的に保有する子会社です。東燃ゼネラル石油は、東京証券取引所第一部に株式を上場しており、エクソンモービル有限会社が 50.02%の株式を保有する子会社です。詳細につきましては、こちらのサイトをご覧ください。 [www.exxonmobil.jp/](http://www.exxonmobil.jp/)  
[www.tonengeneral.co.jp](http://www.tonengeneral.co.jp)